

不登校対策支援プラン

プランの策定にあたって

更新日 4 月 1 日

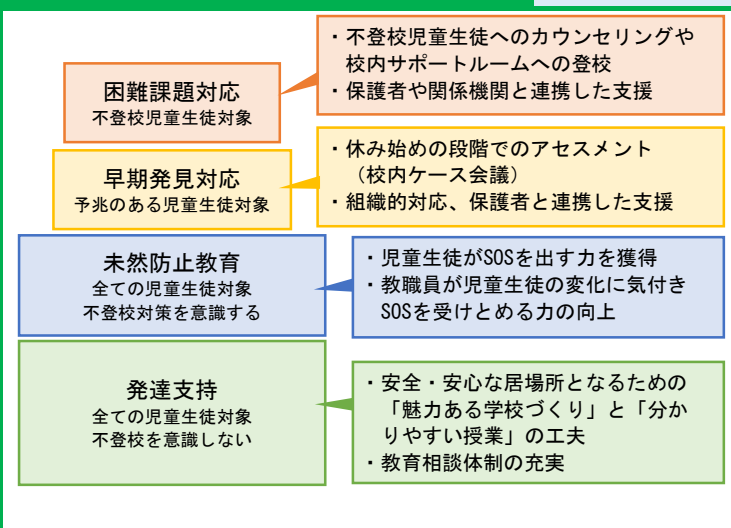
県内において不登校児童生徒数は増加傾向にある中、不登校対策では、対象や課題性に基づいた取組が求められています。全ての児童生徒を対象とした取組や不登校の予兆が見られる児童生徒への支援、欠席が継続している児童生徒への支援を組織的かつ計画的に行うことが必要です。本校では、実態を把握し、以下の目標や取組を設定し、教職員が一丸となり対策を進めることで、誰一人取り残すことのない、持続可能な不登校対策や支援を行います。

不登校対策の目標

- 1 アセスメントや個別指導記録の活用により早期の状況把握と的確な支援など、サポート体制の充実を図る。
- 2 学校、家庭、関係機関が連携協力し、生徒がどのような支援を必要としているのかを見極め、適切な支援と多様な学習の機会（タブレット配信、安心できる別室教室での学習の場）を提供する。
- 3 生徒本人のみならず家庭への適切な働きかけや支援を行う。

不登校対策における重層的支援構造

参考：生徒指導提要R4.12



不登校対策チーム構成

管理職、特別支援コーディネーター、不登校支援担当、生活指導担当、各学年代表、各担任、養護教諭、生徒支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー

不登校児童生徒支援関係機関等

総合支援センター（さつき学級・サテライト学級）、公認心理士、医療機関（担当医、カウンセラー等）

4つの層での取組等

発達支持

- ・多様なニーズにこたえる支援の工夫。
- ・ユニバーサルデザインの視点にたった魅力ある学校づくり。
- ・安心して学習ができる集団づくり。

未然防止教育

- ・SCと特別支援教育コーディネーター、各担任が連携し、本人の困り感に気づいたり分析したりする。
- ・QUアンケート、いじめアンケートの実施。日頃の声かけや日誌などコミュニケーション。
- ・道徳、人権学習、情報モラルへの指導。

早期発見対応

- ・教師間の連携。保護者との連携。校内ケース会議の実施。
- ・健康観察、生徒記録、アセスメントの強化。
- ・個別面談、家庭訪問の実施。

困難課題対応

- ・別室学習やタブレットのオンライン配信など別室支援の工夫。
- ・行事等の参加方法の工夫。
- ・安心して過ごせる通級教室や相談室の設置。
- ・関係機関との連携。